すこやか VOL.64

医療法人　藤田病院
岡山市東区西大寺上三丁目8-63
TEL（086）943-6555（代）
平成28年5月発行

偕楽園 好文亭（水戸市）

社会保障費の「見返り」

藤田病院　外科　渡邉 剛正

私たちは貨幣経済の中に暮らしています。自給自足の生活をしている人もオール自給というわけにはなかなかいきません。ほとんどの人がお金でモノを買って生きているわけです。モノには値段があり、売る側と買う側のバランスで決まります。モノの数が限られている時にそれを買いたい人が増えれば値段は上がります。

さて、目に見える売買とは別に「投資」という概念があります。人が何かに対して一定の金銭を投ずる時、普通は「見返り」を期待します。投じた金銭と同等以上の利益を目的としています。損得勘定は経済の大原則であり、初めから損が分かっていることに投資する人などいません。

突然「何の話だ?!」「分かりきったことじゃないか！」と思われるかも知れません。

それでは「医療や介護にお金を掛ける」とはどういうことなのでしょう？　損得だけで割り切れるでしょうか？　病んだり傷付いたりした心身を癒やし治すことは確かに投資に見合っていることです。一方で終末期医療や高齢者介護はどうでしょう？　これらの医療に対する「見返り」は何でしょうか？

見返りの無い医療や介護などやめてしまえという風潮が広がっています。無論、財源は決まっているわけですから合理的で公平なシステムは必要です。無駄なことに投資するほどの余裕が無いのは確かです。しかし臨床現場で患者さんを目の前に治療をしていると無駄とは何か？　合理的な医療とは何だ？　ということを自問する機会は増えています。

医療や介護に人生の終盤で関わることが多いのは事実です。しかも膨大な医療費用・介護費用が死の直前に注ぎ込まれているという統計もあります。ただ確かなことは、医療や介護が安心して受けられるという制度こそが豊かな人生の基盤になるのだということです。

医療や介護に皆で少しずつお金を出しあって、病んだ時、老いた時、困った時に助け合う社会にしようというわけです。

医療や介護にお金を掛けるのは、安心して人生を謳歌し、この国で年齢を重ねていくために必要な費用なのだと思うのです。

大腸 胃 内視鏡センター開設

2階フロアをリニューアル

平成28年4月に、当院3号館2階に内視鏡センターがオープンしました。2階フロアの一部をリニューアルし、検査室を4つと十分な広さの待合、内服スペース、回復スペース、説明室などを1フロアに集約しました。

これにより受付から検査後の説明まで移動することなく過ごしていただけるようになりました。

さて、厚生労働省の平成26年度人口動態統計によると、総死亡者数は127万3020人。そのうち、がんは36万7943人で第1位です。実に総死亡者の3・5人に1人はがんで、現在もがんによる死亡者数は右肩上がりに増加しています。男性では胃がんは肺がんに次いで2位、大腸がんは3位、女性は大腸がんが1位で胃がんは3位となっており、胃と大腸を合わせて消化器がんと考えると男女とも1位になります。特に男女とも大腸がんは増加傾向です。原因は食事の欧米化と言われています。

いくら死因1位といっても、「自覚症状もないし自分には関係ない」と思っていませんか？

がんには自覚症状のないものが多く、特に早期がんではほとんどありません。便潜血（検便）の検査も、ポリープがあっても引っかからないこともしばしばあります。しかし、これら消化器がんは、胃内視鏡検査や大腸内視鏡検査を定期的に受けることで早期発見、早期治療ができるので、決して「治らないがん」ではないのです。

開院以来40年間、消化器疾患を得意分野として診療を続けてきた実績と合わせ、西大寺を中心とした岡山市東部・瀬戸内市の皆様にもっとたくさん、もっと早く検査を受けられるような環境を整備したい。そんな想いでセンターの開設に至りました。

平日なら毎日検査ができます

検査日

胃・大腸ともに月曜日から金曜日まで検査可能になりました。検査を希望される方は外来にて医師、看護師にご相談ください。

当センターの6つの特徴

1. 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医の岡咲医師を中心とした専門スタッフで検査を行います
2. 最新のオリンパス社製カメラや洗浄機を揃え、安全にも十分配慮しています
3. ご希望の方には鎮静剤を使用します。眠っている間に苦痛なく検査ができますので、安心です
4. 胃カメラは経鼻内視鏡でも検査可能です。皆様に負担の少ない検査を受けていただくよう努めています
5. 検査後は回復スペースでゆっくり休んでから、帰っていただきます
6. 専用フロアなのでプライバシーが守られ、ゆったりとしたスペースで検査までの時間を過ごしていただけます